

博物館友の会



「宜野湾市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して、宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。宜野湾市内だけではなく、市外からも広く会員を募集しております。今年度は新規入会の方も多く、友の会の会員数は107名(2019年3月現在)になりました。友の会会員向けの企画展の展示解説会やサークル活動も行っていますので、興味のある方は、この機会にぜひ入会を検討してみたいはいかがでしょうか。

【平成30年度の活動内容】

- ①友の会定期総会(4月28日)
- ②「新収蔵品展」展示解説会(4月28日)
- ③「沖縄戦の中の宜野湾」展示解説会(6月30日)
- ④「大昆虫展」展示解説会(7月28日)
- ⑤サークル活動
(わらば～体験じゅくタイムの植付支援)
(10月20日)
- ⑥「宜野湾探訪Ⅱ」展示解説会(11月10日)
- ⑦「石川竜一写真展」展示解説会(12月15日)
- ⑧サークル活動
(わらば～体験じゅくタイムの収穫支援)
(1月26日)
- ⑨新年会(1月26日)
- ⑩「ぎのわんの“字”展～宇地泊編～」展示解説会
(2月9日)
- ⑪友の会主催
「思い出のお宝・作品展」(3月10日～3月24日)

～博物館友の会についての詳細は、

博物館または博物館ホームページまで～

自然・歴史・文化に興味がある方、博物館が好きな方であれば、市内外、年齢、性別を問わずどなたでもご入会いただけますよ♪



↑友の会総会の様子



↑展示解説会の様子



↑会員思い出のお宝・作品展の様子

- ◆入場料：無料
- ◆開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半迄)
- ◆休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始
(文化の日、慰霊の日には開館します)

※火曜日と祝祭日が重なった場合、翌日の水曜日にも休館になります。

宜野湾市立博物館



〒901-2224
宜野湾市真志喜1-25-1
TEL(098)870-9317 FAX(098)870-9316



はくぶつかんネット



第64号

平成30年度12月～3月 発行：宜野湾市立博物館

地域との連携企画展 ぎのわんの“字”展

美らさ浜ぬ真砂 うちどまり

(共催：宇地泊区自治会)



▲オープニングのテープカット

(左から：富名腰義政 自治会長、知念春美教育長、博物館長)

市内の1つの地域にスポットを当てて紹介する企画展「ぎのわんの“字(あざ)”展」を2019(平成31)年1月23日(水)～3月3日(日)の期間で開催しました。

第11回目である今回のテーマは、「宇地泊(うちどまり)」です。発掘された遺物、地域の歴史に関する写真、行事の衣装、先人たちが使っていた道具などを展示し、自治会活動をアピールするコーナーも設けられました。期間中に1,405人もの方がご来場くださり、中には「懐かしいね～」と昔話に花を咲かせる方や、「うちのおばあが写真に写っている!」と喜んでくださる姿も見られました。貴重な資料をご提供、開催にご協力して下さった宇地泊地域のみなさん、本当にありがとうございました。



たくさんの方のご来場ありがとうございました♪

美らさ 浜ぬ真砂 うちどっまい展を終えて…!

今回の字展では、宇地泊地域について紹介しました。その宇地泊について、ちょっと、おさらいをしてみましょう。

【宇地泊ってどんなところ?】

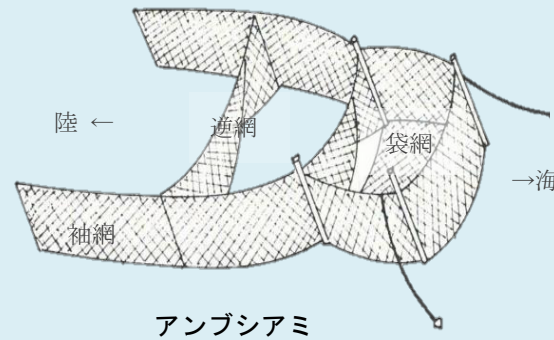
宇地泊は「ウチドゥマイ」と呼ばれ、南側は浦添市牧港、東側は大謝名に接し、北側は真志喜、西側は東シナ海に面しています。戦前は、農業が多い宜野湾村の中で唯一の半農半漁を生業とする集落でした。中でも宇地泊の住民は、宜野湾近海を漁場に漁船でもって網漁を、刺突具でイザイ漁を行い、その漁獲物を婦女子が販売して、日々の生活の糧としていました。

【漁業は、どんなふうに行っていたの?】

戦前、宇地泊の網漁の特徴は、1、2艘のサバ二舟を使用した個人ないし小人数で行うもので、それも特定の種類に限定した魚を対象とする漁法が多数占めていることにあります。

代表的な漁法を紹介すると、潮の干満を利用する定置網漁のアンブシ(建干網)漁があげられます。網の組み方は、魚を集め捕るフルアミ(袋網)、逃げるのを防ぐティアミ(袖網)とアギアミ(逆網)からなり、干潮時でもわずかに海水が残る場所で行われました。

アンブシ漁は周年にわたって行うことができましたが、冬場は北風(ニシカジ)が強く、波浪の荒い日が多いため、1カ月に10日前後しか、網入れができなかったそうです。



【宇地泊の海神祭と主な聖地】

宇地泊には、海に関する行事も残されています。毎年旧暦4月1日には海の御願(海神祭)と称して、豊漁と海の安全を祈願する行事が行われています。行事2日前に漁師が魚を捕り、それらを前日に区のボランティアが公民館で調理します。当日は自治会長、現役漁師、先祖が漁師だった方々が供物である揚げ魚とピンシー(瓶子)を持ち、クンカー、ヒートゥジー、龍宮神、合祀所の順で祈願を行います。祈願を終えて、この日のお昼には、公民館に集まった区民へ魚料理が振る舞われました。



クンカー

大謝名小学校の近くにある湧水です。若水・産水を汲んでいました。



ヒートゥジー

宇地泊一帯を見晴らす高台にあり、大きな岩の陰に香炉が設置されています。かつては、狩りで捕えたヒートゥ(ゴンドウクジラ)をここに供え、その寄りつきや捕獲に感謝しました。



合祀拝所での祈願

公民館敷地内にあり、「西のうたき」「屋号ウフヤ(大屋)の火の神」「東のうたき」「屋号ナーザト(宮里)の海神様」が祀られています。

これまでに開催した“字”展(平成19~30年度) ※28年度を除く

- ① 入門編
- ② 真志喜
- ③ 伊佐
- ④ 宜野湾
- ⑤ 喜友名
- ⑥ 大謝名
- ⑦ 我如古
- ⑧ 嘉数
- ⑨ 大山
- ⑩ 野嵩
- ⑪ 宇地泊

次はあなたの地域にスポットが当たるかも…?



社会科見学の様子



市内外の小学校から社会科見学にお越しいただき、誠にありがとうございました。今年度は20校1,780人の生徒が訪れ、昔と今の暮らしのうつり変わりについて学びました。その様子をご紹介します。その様子をご紹介します。



★学校の社会科見学の際には展示室の解説に加えて、博物館職員の指導もと、「昔の道具」を使用した体験学習も行っています。



出前講座の様子



出前講座での体験学習の様子です。



★出前講座は、宜野湾市内の学校を対象に、博物館への移動手段の確保が出来ない場合、博物館職員が学校の方に出向いて昔の道具紹介及び体験を行っています。



学校の社会科見学や出前講座の場合は、打合せが必要となりますので、1ヵ月前までにはお問い合わせ下さいますよう、よろしくお願い致します。



キャリアスタートウィーク

真志喜中学校

11/19、11/21



真志喜中学校と嘉数中学校の生徒が職場体験にやってきました!

嘉数中学校

12/5(水)



驛 琉聖さん

昔の物、こと、名前がよく分かりました。グスク時代の事も初めて分かり土器や落とし穴などグスク時代の事が分かり貴重な資料整理ができ、とても良い体験ができました。

照喜名 藍さん

学校で学んでいる事を具体的に学べ、生物の世話や社会見学の小学生の見守りなどとても良い時間を過ごしました。

原 颯和さん

博物館では物を展示するだけでなく、その物から何があったのかを研究するなど深い事をしてしていると分かりました。

古謝 由太さん

団体見学の誘導などは難しかったけれど、無事にできて良かったです。水槽の掃除なども仕事の一端だと分かりました。

川名 流久さん

博物館での仕事はびっくりするすごい仕事でした。展示会の片づけをしたのですが、相当重くて運ぶのが大変でした。

稲福 海斗さん

体験して3つわかったことがあります。1.保存するのも博物館の仕事であること。2.博物館の職員は調査にも行っていること。3.年に7回も企画展示を行っていること。すごいなと思いました。

新垣 瑠音さん

収蔵庫にはたくさんの物があって保管だけではなく部屋の温度や湿度を管理し、手入れなどしていることが分かりました。そういった事をこなせる職員がすごいと思いました。

沖縄県地域史協議会設立40周年記念シンポジウム

「辞令書や履歴書等から見える琉球・沖縄の地方役人」

3月1日(金)に沖縄県立博物館・美術館の講堂にて「沖縄県地域史協議会設立40周年記念シンポジウム 辞令書や履歴書等から見える琉球・沖縄の地方役人」が開催されました。

沖縄県地域史協議会とは、県内各市町村で市町村史(誌)を編集、刊行している機関で、宜野湾市史もこの協議会に加盟し、歴史資料や編集技術等の情報交換を行っています。その沖縄県地域史協議会(略して「沖地協」)は、1978(昭和53)年11月4日に設立して2018年に40年を迎えました。

その周期事業の一環として、県民に対して本協議会の活動について周知と理解を図るとともに、本協議会で進めている「近代辞令書報告書」と「近世地方役人勤書関係資料」の調査・研究成果の公開の場として、このシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、琉球王国時代から明治、大正期の辞令書や履歴書等の変遷や、書かれている内容について、時代の特徴や地域差などについて報告とシンポジウムを行いました。

まず、琉球大学名誉教授の高良倉吉氏から「琉球辞令書に見る王国体制」と題して、基調講演があり、続いて得能壽美(石垣市史 元職員)氏の「宮古・八重山の役人と百姓役目」、仲原弘哲(今帰仁村歴史文化センター 元館長)氏の「勤書(口上覚)にみる間切役人の動き」、金城善(糸満市立図書館 元館長)氏の「近代の諸制度の変遷から辞令書を読み解く」の3本の報告がありました。

後半は高良氏をコーディネーターに得能氏、仲原氏、金城氏の三氏でシンポジウムを行いました。シンポジウムでは、地域に残る歴史史料を一つの地域で見ただけなく、各地に残る同一の史料と突き合わせることで、違う特徴が見えるということ、今後の地域史編集に関する視点のあり方についても言及されました。

今回のシンポジウムに参加して、これからの宜野湾市史の調査、編集においても参考となる内容でした。他地域との比較研究を行うことで、より宜野湾の特徴が見出し、新しい史料の調査の必要性を感じました。宜野湾市は沖縄戦で古文書などの史料が失われてしまい、先人たちの足跡も断片的な面でしかわからず、まだまだ調査研究が必要とされています。

もし、みなさんのご家庭に眠る歴史史料がございましたら、ぜひ、一度拝見させていただきませんか？



基調講演を行う高良倉吉氏



仲原弘哲氏による報告



シンポジウムの様子

平成30年度 博物館市民講座 を振り返って

平成30年度の市民講座は17回を予定しましたが、12月15日に急きょ開催が決まった、宜野湾市出身の写真家である石川竜一さんのギャラリートークを加えると、合計18回になります。この18回にご参加頂いた方は、累計で550名余りにも上りました。多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございました！

<p>第1回:5/13</p> <p>クモの話</p>	<p>千木良 芳範 (宜野湾市立博物館館長)</p> <p>クモの種類や特性などが楽しく紹介され、クモが身近に感じられました。</p>	<p>第2回:6/10</p> <p>森川公園の自然</p>	<p>千木良 芳範 (宜野湾市立博物館館長)</p> <p>元々の自然を活かした森川公園を散策して、植物や地形などを観察しました。</p>	<p>第3回:6/17</p> <p>語やひら、イガルーシマ ～宇野野湾編～</p>	<p>玉那覇 祐正 (宇野野郷友会)</p> <p>戦前・戦中の宇野野湾の様子とくらしが語られ、平和の尊さを改めて学びました。</p>
<p>第4回:7/29</p> <p>沖縄の昆虫と人との関わり</p>	<p>佐々木 健志 (琉大風樹館学芸員)</p> <p>沖縄の昆虫の多様性や、人間との関わりについて紹介され、子供達も興味津々でした。</p>	<p>第5回:8/12</p> <p>石は語る</p>	<p>大城 逸朗 (おきなわ石の会会長)</p> <p>石から読み取れる大地の歴史や珍しい石が紹介されました。石を拾うのが楽しくなるかも…?</p>	<p>第6回:9/16</p> <p>西普天間の文化財</p>	<p>伊藤 圭 (宜野湾市立博物館主任主事)</p> <p>跡地利用が進む西普天間の文化財について、主に湧泉を中心に巡りました。</p>
<p>第7回:9/23</p> <p>ウシオーラセーは面白い ～闘牛と沖縄の人々～</p>	<p>宮城 邦治 (沖縄国際大学名誉教授)</p> <p>ウシの特性や、人々を熱中させた闘牛の歴史、その楽しみ方などが紹介されました。</p>	<p>第8回:10/14</p> <p>グスク時代の農業と琉球石灰岩台地の宜野湾</p>	<p>安里 進 (沖縄県立芸術大学附属研究所 客員研究員)</p> <p>グスク時代における有力者の盛衰が、領地の地質や農業と関係付けて紹介されました。</p>	<p>第9回:10/28</p> <p>味間先を訪ねて～中部編～</p>	<p>仲村 元惟 (宜野湾市史編集委員会委員)</p> <p>中部の収容所跡や戦中・戦後の宜野湾市民に関わりがある場所を巡りました。</p>
<p>第10回:11/4</p> <p>グスクの話</p>	<p>上原 静 (沖縄国際大学教授)</p> <p>グスクとは何か？その語源や形態、本土の城郭と比べた特殊性などが紹介されました。</p>	<p>第11回:11/11</p> <p>グスクツアー</p>	<p>上原 静 (沖縄国際大学教授)</p> <p>喜友名グスクや、祭度にゆかりのあるグスクを巡り、終点では与那原駅舎資料館を見学しました。</p>	<p>第12回:12/2</p> <p>軽便鉄道の旅</p>	<p>波平 エリ子 (沖縄女子短期大学准教授)</p> <p>軽便鉄道と那原線の跡をバスで辿り、終点では与那原駅舎資料館を見学しました。</p>
<p>第13回:12/9</p> <p>冬だけど... カエルの話をしよう</p>	<p>千木良 芳範 (宜野湾市立博物館館長)</p> <p>本土と異なる沖縄のカエルの生態が、貴重な写真や音声を変えて紹介されました。</p>	<p>12/15</p> <p>okinawan portraits ギャラリートーク</p>	<p>石川 竜一 (宜野湾市出身写真家)</p> <p>ご自身が撮影した作品について、そのエピソードなどが写真を見ながら紹介されました。</p>	<p>第14回:12/23</p> <p>戦後の街、普天間をめぐる</p>	<p>平敷 兼哉 (宜野湾市立博物館学芸員)</p> <p>昭和40年代の地図を片手に、戦後宜野湾の中心地であった街を散策しました。</p>
<p>第15回:1/13</p> <p>御願の道具と供えもの</p>	<p>稲福 政斉 (沖大・沖縄大非常勤講師)</p> <p>一風変わった沖縄の風習などが、ユーモアを交えて楽しく紹介されました。</p>	<p>第16回:2/3</p> <p>めくてい！イガルーシマ ～宇地泊編～</p>	<p>平敷 兼哉 (宜野湾市立博物館学芸員)</p> <p>宇地泊の歴史や文化にふれながら、地域の名所旧跡を歩いて巡りました。</p>	<p>第17回:2/17</p> <p>博物館市民講座 宜野湾あれこれ！</p>	<p>新垣 義夫 (普天満宮宮司)</p> <p>カチャーシー大会や普天間参詣、洞窟など、ありんくんなお話をしました。</p>

次年度の市民講座もどうぞ、ご期待ください！

平成30年度 第19期 わらば～体験じゅく

昨年の6月から始まり、今年の2月に終了した「わらば～体験じゅく」の活動を振り返ります。市内の小学5・6年生を対象に抽選で選ばれた30人の児童が、主に宜野湾市の歴史や文化について、様々な体験をとおして学びました。

6月＊開校式・博物館見学と昔の道具体験
講師：博物館職員



これから約1年間、一緒に体験する仲間たちとの初顔合わせ☆どんな事が起こるのか、楽しみでした♪

8月＊葉脈標本づくり
講師：天野 正晴
(一般財団法人 沖縄美ら島財団)



葉っぱの葉脈を標本にする作業は、めったに出来ない体験でした★どの作品も、素敵にできていました♪

8月＊漆喰シーサーづくり
講師：比嘉 和行
(わにや耕房代表)



瓦の組み合わせによって様々な表情が出るので、みんなのオリジナルシーサーは、個性いっぱいでした♪

9月＊漆の技法体験
講師：宮島 さおり 他3名
(NPO法人 ARTLINK 理事長)



琉球漆器の技法の一つ、「沈金」を体験してみたよ。世界に一つだけの作品なので、大事にしてね♪

10月＊田イモの植付けに挑戦！
講師：石川 達義
(大山 田イモ農家)



宜野湾市の特産品である「大山のタイモ」の植付けを体験！作物を育てる事の大変さや、大自然に触れました♪

11月＊喜友名シーサーめぐり
講師：博物館職員



シーサーは屋根や玄関の上にいる他に、集落を守るシーサーもいる事が分かったね☆

12月＊ウシとふれ合おう！
講師：宮城 邦治
(沖縄国際大学名誉教授)



その昔、宜野湾市でも行われていた「闘牛」。そのウシ達と、牛舎の掃除や散歩・水浴び等でふれ合ってみよう★

1月＊田イモの収穫に挑戦！
講師：宮城 徳彦
(大山 田イモ農家)



田イモの「植付け」の次は「収穫」を体験！農家の方が大事に育てた田イモを、丁寧に収穫したよ☆

2月＊冬の森川公園散歩・閉校式
講師：博物館職員



最後の体験「冬の森川公園を散歩」をした後は、閉校式★みんな「じの～ん」通になれたかな？

今年度、市内在住の5・6年生になる皆さんの中で、興味のある方は、博物館から配布される申込用紙をぜひ持って来てね♪ 一緒に宜野湾市の歴史や文化について、楽しく学ぼう！



第44回 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 全国(沖縄)大会 アーカイブズ再考—その価値と活用—

主催：全史料協 共催・特別協力：沖縄県
後援：独立行政法人国立公文書館 公益財団法人沖縄県文化振興会 沖縄県地域史協議会 沖縄県市長会 沖縄県町村会 デジタルアーカイブ学会

11月8日(木)、9日(金)に沖縄県市町村自治会館にて、「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」が開催されました。沖縄での開催は1988(昭和63)年に第14回大会、1998(平成10)年に第24回大会以来となります。現場視察、研修会、調査・研究委員会報告といった内容で開催され、多くの方が参加しました。



大会テーマ研究会でのパネル・ディスカッションの様子



大会は「歴史資料の保存利用活動の振興に寄与」することを目的で開催され、沖縄大会のテーマは「アーカイブズ再考—その価値と活用—」でした。研修会では「安波根昌演資料の意義と調査活動の歩み」「アーキビストと人権保護」を学びました。総合討論ではデジタルアーカイブについて学術レベルとしては難しいのではないか、公報活動と割り切った方がいいのではないか、公開の意識について欧米と日本の違いについて迫熱した討論が行われました。

【沖縄大会宣言】

- 1 アーカイブズは、唯一無二の存在である！
- 2 アーカイブズを扱う専門職(アーキビスト)が必要である！！
- 3 アーカイブズは国民の権利を守る！！

大会の最後に第44回全史料協全国(沖縄)大会宣言が宣言されました。



沖縄での開催が無事終了し、次の開催地へバトンタッチを告げる沖縄県公文書館館長。次の開催地は「長野県」です！

大会に参加して、歴史資料を保存・活用することが人権保護につながるということや、アーキビスト及び文書担当の基本原則等がよく分かりました。人権と人道法は流動的な概念なので、アーキビストは人権と基本的自由に関連する倫理的義務について継続して研修を受けなければならないということもよく分かりました。

デジタルアーカイブを円滑に運用するためには、デジタルアーキビストの資格保持者が2万人は必要だと言われています。現在、日本で資格保持者は5000人を越えたところですが、かなり前から世界はデジタルアーカイブへと進んでいます。日本もやっとならデジタルアーカイブに移行しようとしています。現在、国が2020年の正式版公開を目指して『ジャパンサーチ(試験版)』の運用を行っています。また、教育では文部科学省よりICTを活用して教育の情報加速化プランが出されています。

デジタルアーカイブを活用するには、解決しないといけない課題がいっぱいあるよ

